

令和4年度 東京都立東久留米総合高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 今年度の取組目標と自己評価

(1) キャリア教育

- ① 総合学科高校として、生徒一人一人の多様な「25歳の自分創り」に向けた様々なキャリア教育に係る指導を、全教職員が共有して組織的に行い、生徒の可能性を最大限に引き出すため、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「人間と社会」、3年次の「課題研究」と3年間にわたるキャリア教育の体系化と共有化を図るとともに、進路行事・講演会・説明会・体験活動等を充実させた。キャリア教育は総合学科の大きな特徴となるため、今後も全校体制で組織的に実施し、さらなる充実を目指していく。
- ② 課題研究のより一層の充実に向け、早期の導入と意識づけを行い、今後のキャリアにおいて自身の強みとなるよう支援してきた。新型コロナウイルス感染症の影響で、インターネットや書籍による検証にとどまるケースも散見されるため、今後は地域や上級学校等との連携を拡充し、校外での活動を奨励していく。
- ③ 新教育課程の選択科目は、総合学科高校の特徴である興味関心に応じた多様な科目選択がより可能となるよう、講座を増設し、2・3年次の共修講座を増加させるかたちで履修登録を行った。
- ④ 進路関係の校内研修は年3回実施を目標としたが、年2回実施となった。進路情報の共有や模擬試験の結果等の組織的な分析・活用について、有意義な研修となった。今後も生徒の進路実現のため、全教員による組織的な進路指導体制を構築する。
- ⑤ 学習支援クラウド等を活用し、生徒の活動実績などを蓄積することにより、キャリア・パスポートを充実させることは継続してできている。生徒の学習・指導の改善や高大連携に効果的になるよう今後も活用する。
- ⑥ 大学進学者のうち現役実合格者数は、国公立【昨年度2名⇒0名】、早慶上理【昨年度1名⇒0名】GMARCH【昨年度23名⇒6名（明治1、青山学院1、立教1、法政3）】、日東駒専【昨年度27名⇒34名】となった。
- ⑦ 学校推薦型選抜推薦入試・総合型選抜等での入試の割合は増加している。134名（昨年度122名）が推薦受験をして103名（76.9%）が合格した。合格者のうち第一志望に進学する生徒は96.1%（昨年度90%）となった。高い水準を維持している背景に、一昨年度から実施している「生徒一人一人に全教員が関わる」をテーマに「小論文指導」、「面接指導」を全教員の協力のもと行ってきたことがあげられる。
- ⑧ 今後の入試において、検定試験の重要度は依然高い。GTEC全員受験を継続し、英検受験を推奨していく。今年度の英検受験結果は、2級合格者16名、準2級合格者43名であった。
- ⑨ 看護系合格者は19名（昨年度17名）で、大学8名、専門学校11名であった。
選択科目「看護入門」を設置し、進路実現に向けた指導も、看護系上級学校等や日本赤十字社との連携を多数実施するなど、充実したサポートを実施している。

(2) 学習指導

- ① 主体的・対話的で深い学びを実践し、協働的な学びを推進することは大きく前進したが、個々に応じた指導や効果的な実践については、更に検討が必要である。
- ② ICT 機器や生徒一人1台端末の活用については大きく前進したが、個別最適な学びの推進や、より効率的で効果的な授業を展開することについては、更に検討が必要である。
- ③ Teams 等を活用した授業アンケートや、全定合同授業相互見学の機会、管理職との授業観察後の振り返りにより、全教員の授業力向上を図った。
- ④ 初任者・2年次・3年次研修、中堅教諭資質向上研修等の研究授業は年間16回実施した。全定合同授業相互見学の機会を通じて、授業力向上の意欲は向上した。
- ⑤ 生徒のキャリア実現のため、長期休業中における講習をすべての年次で実施した。また、放課後等の講習・補講、2週間前指導を実施した。
- ⑥ 英語力向上のため、英語4技能テストの1年次生・2年次生全員受験を実施した。
- ⑦ 定期考査は原則同一講座を共通問題とした。同一講座担当者間での教材の共有化の推進は停滞している。
- ⑧ 全教科において、令和4年度入学生から3観点に基づく評価を実施した。令和5年度では、今回の結果を検証し、より適切な評価へ繋げる。

(3) 生活指導

- ① 社会人としてのマナーやTPO、頭髪や服装等の身だしなみ指導、生徒の規範意識の向上、時間や期限を守ること、自律的な行動の意識向上、等について組織的に指導してきた。登下校のルールとマナーや、学校生活における時間を守ることが課題となった。今後もルールとマナーを守ることが組織的に指導していく。
- ② いじめ対策について、いじめアンケートを年3回実施し、生徒の言動・行動に注意を払い、組織的な情報共有を通して、未然防止・早期発見・早期対応に努めた。
- ③ 特別指導件数は9件と、昨年度2件、一昨年度0件と比較して大きく増加したが、組織的で的確な指導により、当該生徒の成長につながられている。
- ④ 転学者数は11名（1年次7名、2年次4名）で、昨年度14名（1年次9名、2年次4名、3年次1名）から減少した。

(4) 特別活動

- ① 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる指導・支援を継続し、コロナ禍の開催で難易度も高い状況下であったが、体育祭、文化祭、合唱コンクール、球技大会などの行事では、すべて生徒の主体的な活動として、自律した運営により実施でき、大きな成果となった。今後も更なる主体的で自律的な活動となるよう生徒を支援していく。
- ② 部活動の活動は、週当たり2日以上以上の休養日を設ける（平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日とし、休養日が確保できなかった場合は、他の日に振り替える）よう指導した。1日の活動時間は、長くとも学期中の平日は2時間程度とし、週休日及び長期休業中は3時間程度とするよう指導した。

- ③ 男女サッカー部が「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、スポーツ志向を醸成し、競技力向上を推進してきた。次年度も指定を希望する。
- ④ 部活動外部指導員を積極的に活用し、部活動の活性化と教職員の負担軽減に努めた。
- ⑤ 国際交流リーディング校、海外学校間交流推進校に指定されているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、新たな海外交流等は開発・実施できなかった。来年度は、豊かな国際感覚の育成等、国際理解教育の充実を図るためにも様々なかたちでの海外との交流を検討していく。

(5) 保健活動

- ① 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を、学校全体で組織的に行った。
時差登校（8時55分登校・45分授業）を継続実施し、生徒登校時は、毎朝健康観察と検温チェック、教室等の消毒、換気の励行、昼食時の黙食指導等を行った。
- ② 週1回開催の教育相談委員会（年間23回開催）を中心に、生徒情報の共有と対応について検討してきた。
今後も、生命尊重や人権尊重の態度の育成、いじめ等生徒間トラブルへの対策・対応、生徒の安心・安全等のため、日常の生徒観察と情報共有の徹底、ポジティブな声掛け、生徒からの相談体制の充実、アンケートの実施、SCや外部機関との連携等、必要となる対応を的確に実施するため、組織的な指導体制の構築を推進していく。
近年、多様な生徒が入学してきているため、これまで以上に外部機関との連携を密にして、組織的で丁寧な指導をしていく必要がある。

(6) 広報活動

- ① 全職員が総合学科である本校の特色と魅力を理解し、学校全体で組織的に広報活動を実施した。
入学者選抜の推薦に基づく選抜では、倍率2.07倍（前年度2.43倍）、学力検査の倍率は1.05倍（昨年度1.07倍）と共に低下した。男女比は男子が減少し、女子が増加している。
- ② 学校見学会や学校説明会は、生徒による主体的な運営により実施して、中学生及びその保護者から好評を得た。広報委員の生徒を中心に、有志生徒も含め、多くの生徒がかかわり、自律的な運営や協働的な活動を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力等、本校生徒の学びにもつながった。
- ③ 夏季休業中を中心として、通学圏内の中学校訪問を全員体制で実施した。また、11校（昨年度7校）の中学校の上級学校説明会等に参加した。また、外部団体主催の個別相談会等に11回（昨年度8回）参加した。夏季休業中の小規模な学校説明会は28回（昨年度40回）実施した。
- ④ 新型コロナウイルス感染症の影響で、部活動体験や授業公開は実施が制限された。
- ⑤ ホームページをリアルタイムに更新し、内容の充実を図ったが、今後はより一層の充実を図る。

(7) 学校間連携や地域との連携を図る

- ① 昨年度同様、学校間連携や地域連携に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、関係各所との様々な連携を中止や延期とすることになった。次年度は積極的に地域や外部との連携を拡大する。
- ② 年4回の避難訓練等で、東久留米消防署・東久留米市役所・日本赤十字社・地域の防災組織

等と連携し訓練を実施した。特に3月の地域との合同防災訓練では、日本赤十字社から研修を受けた2年次「看護入門」履修生徒が、1年次全員対象として、伝達講習を実施できたことは、非常に有意義な学びとなった。また、地域の住民の方が本校の訓練の様子や施設を見学するなど、地域との連携を深める機会となった。

- ③ 学校施設開放計画を東久留米市教育委員会や地域スポーツ団体との協力をもって作成し、管理・運営した。

(8) 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議は、分掌主任間の事前調整・準備の成果で、ほぼ45分以内に終了し、本来の機能を果たした。分掌会議との双方向性も向上している。
- ② 分掌や教科等の計画的で組織的な業務の推進によって、効率化による労働時間の短縮を図ることについては、今後の課題となる。
- ③ TAIMSポータルを有効活用した情報共有は、全職員による確実な実施とはなっていないため、今後の課題となる。
- ④ 年間3回の研修等や企画調整会議及び職員連絡会等をとおして、服務事故防止と服務厳正について徹底し、学校運営の適正化に向けて常時努めている。
- ⑤ 全定の連携は副校長間の連携不足等により、効率的な施設利用について課題が多くみられた。次年度は、事前調整を徹底し、必要に応じて全定連絡会を開催する等、協力して効率的な施設の活用と、安心して安全な生徒指導体制を構築する。

2 学校評価アンケートの概要

学校評価アンケートについて、評価の実態が分かるように、生徒、保護者、教職員への質問を20問、地域へのアンケート項目を10問にしている。

- (1) 生徒の「学校満足度」を問う質問項目（「私は、東久留米総合高等学校に入学して良かったと思っている。」）では、肯定的評価（5段階評価の「5」または「4」）は、1年次70%（昨年度75%）、2年次57%（昨年度51%）、3年次58%（昨年度68%）であった。入学して良かったと、肯定的に捉えている生徒が、1，3年次は昨年度に比べて低くなった。
保護者の「学校満足度」を問う質問項目（「私は、東久留米総合高等学校に子供を入学させて良かったと思っている。」）では肯定的評価が、1年次88%（昨年度83%）、2年次80%（昨年度79%）、3年次77%（昨年度89%）であった。
- (2) 学習満足度については、「本校は、生徒の学力向上のために教材などの工夫を凝らした授業を行っている。」では、肯定的評価が1年次63%（昨年度77%）、2年次56%（昨年度60%）、3年次42%（昨年度63%）であった。「本校は、しっかりとした学力が身に付くような指導がなされている。」では、肯定的評価が1年次59%（昨年度79%）、2年次54%（昨年度55%）、3年次42%（昨年度63%）であった。「本校の教職員は、わかりやすい授業を常に心がけている」では、肯定的評価が1年次57%（昨年度64%）、2年次61%（昨年度55%）、3年次53%（昨年度61%）であった。全体的に低下し、一昨年に近い

値となっている。

「本校の授業は、ICTの活用や生徒の主体的な学習の取組みに積極的である。」では、肯定的評価が1年次71%（昨年度68%）、2年次56%（昨年度65%）、3年次59%（昨年度56%）であった。

(3) キャリア教育の項目「本校の「産業社会と人間」を中心とするキャリア学習により自分自身の進路に対する関心が高まった。」では、肯定的評価が1年次81%（昨年度85%）、2年次71%（昨年度72%）、3年次62%（昨年度75%）であった。

(4) 生活指導の項目「私は、本校の校則や指導に従った学校生活を送っている。」では、1年次87%（昨年度94%）、2年次86%（昨年度85%）、3年次76%（昨年度87%）であった。1年次と3年次の低下は、他のデータと共通する傾向がある。

(5) 地域の方のアンケートでは、『わからない』が多くなる傾向は変わらないが、地域との連携も徐々に復活してきているため、肯定的な評価がかなり多くなっている。地域との連携の推進は、重要であるため、次年度は更なる連携の推進に努める。

3 次年度以降の課題と対応策

(1) キャリア教育の充実

- ① 総合学科高校として、生徒一人一人の多様な「25歳の自分創り」に向けた様々なキャリア教育に係る指導を、全教職員が共有して組織的にを行い、生徒の可能性を最大限に引き出すため、1年次の「産業社会と人間」、2年次の「人間と社会」、3年次の「課題研究」と3年間にわたるキャリア教育の体系化と共有化を図り、進路行事・講演会・説明会・体験活動等を充実させるなど、全校体制で組織的に指導する。
- ② 課題研究のより一層の充実に向け、早期の導入と意識づけを行い、外部との連携をさらに深め、今後のキャリアにおいて自身の強みとなるよう支援していく。特に推薦入試において、第一志望校へのチャレンジに活用することを想定して指導する。
- ③ 新教育課程の選択科目を、より総合学科らしい内容として充実させ、履修指導を適切に行う。

(2) 学習活動の充実

- ① 次年度、50分授業に戻るプラス5分間を有効に活用し、生徒の実態に応じた主体的・対話的で深い学びの効果的実践や、協働的な学びを推進することにより、生徒の学びに向けた意識・意欲を向上させる。
- ② 次年度は、一人1台端末購入年次が増えるため、今年度の経験を活かし、より効果的で効率的なICT機器や生徒一人1台端末の活用を工夫したい。
- ③ Teams等を活用した生徒による授業アンケートや相互の授業見学等により、授業改善を行う。

(3) 特別活動（生徒の主体的活動のより一層の充実）

- ① 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。
- ② 体育祭、文化祭、合唱コンクール、球技大会などの行事では、生徒の主体的な活動として、自律した運営ができるよう指導・支援していく。

(4) 広報活動の充実

- ① 全職員が総合学科である本校の特色と魅力を理解し、学校全体ですべての広報活動について、全教職員で組織的に実施することにより、中進対1.2倍を目指す。
- ② 学校見学会や学校説明会は、生徒による主体的な運営が、更に推進できるよう、指導・支援する。
- ③ 部活動や生徒の様子を中学生に理解してもらうために、体験部活動を組織的に行う。
- ④ 中学生とその保護者への授業公開は、土曜授業時に年3回以上実施する。
- ⑤ ホームページの過去のデータを精査し整理するとともに、更新頻度を向上させ、充実を図る。